チラシ・フライヤーテンプレート
A4（210mm × 297mm ）

第3章 加盟団体市区町子ども会組織

正会員

小金井小金井市子供会育成連合会（小金井市）

設立年	1963（昭和38）年2月11日　設立57年目	在籍数	48団体　3,178名　＊2020年3月現在
代表者	会長　齋藤　武		

ジュニアリーダー　シニアリーダー　定期刊行物

我が町紹介

小金井市はこんなところです

小金井市は、東京都のほぼ中央、武蔵野台地の南西部にあり、新宿から電車で約25分の距離で約　４キロメートル四方とコンパクトな街です。

小金井の地名の由来は「黄金に値する豊富な水が出る」ことから"黄金井“が転じて"小金井”になったと言われています。

まちは、豊かな自然に囲まれ、市の南側には野川とそれに沿った武蔵の公園・野川公園、北側には玉川上水とそのそばに都立小金井公園があり、水と緑に恵まれています。

玉川上水沿いの山桜並木（国の名勝に指定）をはじめとした桜の名所として知られ、小金井市のシンボルとして市章に花びらが取り入れられています。

現在、約12万人が暮らし、多くの高校や大学が設置され、住宅都市・文教都市としての性格が強い街です。

市内には、宮崎駿監督が代表を務めるスタジオジブリが所在し、豊かな自然や懐かしい風景は作品づくりのモデルにもなっています。そのほか、テレビなどの寺宝のもとになる「日本標準時」は、市内にある、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）内の原子時計により作られ、管理されています。

うちの子供会紹介

市子連マーク

市章は、市制施行を記念して、一般公募により定められたもので、小金井市が桜で有名なところから、桜の花びらを配し、小金井市の「小」の文字を図案化されたものに、子ども会のマークは子供の子を配置して図案化されております。

小金井市子供会育成連合会の特色

喜田正春初代会長は学校の教員（心身障碍児教育）で昭和18年前後小金井に引っ越してきて、幼稚園も保育園もない時に、12～3人を限度に幼い子供を自宅に集め、一週間に4回ほど草をとり、花とり、虫を捕まえ、活動をしていたが子供たちが学校帰りにまた家へ寄ってから帰る。ちょうど今の学童みたいになった。土曜や日曜になると子供たちを山へ連れて行き、川へ連れて行き、それが今の地域子供会の始まりでした。（当時の記録から）

こうした背景から行政は勿論、特に社会福祉協議会からの援助があり、大型バス「みどり号」（現在は廃止）や野外活動施設「桧原山荘」は、夏休みともなると子供会が優先的に利用出来る様便宜が図れた。

ジュニアリーダーズクラブは、当時の高校生が中心となり、他市のジュニアリーダーを視察し、自分達で企画・運営を絶対にするから認めてくれと懇願し設立された（子供の手による子供のためのクラブ）今日に至っている。

また、全国でも珍しい行先不明の夜行列車「ミステリートレイン」を30年間も実施しており、子ども達の夢を乗せて現在も実施している。

他市には無い点として、創立当初から子ども会活動の記録誌「実践集」が毎年発刊されていることも特筆する点であります。

主な活動

○全体事業・ミステリートレイン
○研修事業
- キッズリーダー研修（子供会長会）
- ジュニアリーダー研修（初級・中級講習会）
- 育成者研修
- 指導世話人研修（年３回全体会）
- 安全教育（共済会・救急講習会など）

○育成事業
- ブロック（学校地区）活動
- 単位子ども会支援

●水色の枠線……切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
●ピンクの枠線…仕上がりのサイズ
●みどりの枠線…フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★　ＰＤＦに変換して入稿される場合　★★★
「ヘッダーフッター」画面（カーソルが矢印になる上下の余白の範囲でダブルクリック）より
色つきのガイド線を消してから変換してください

チラシ・フライヤーテンプレート
A4（210mm × 297mm ）

面白い話

ミステリーな？話

今や小金井市子供会育成連合会の目玉イベントとなったミステリートレイン。今でも運営は大変ですが、第1回は本当に「まさか」の連続。７００人の定員に1，６５２人の応募者が殺到し、高学年の子供達を優先に連れて行くことになりました。小金井市が市制３０周年を迎えるにあたり、子ども達もお祝いをしようと企画が立ち上がりました。そこで思い立ったのが「行先不明のミステリートレイン」全国を探して、同じ市制３０周年を迎える福島県二本松市。

市長さんをはじめ、市の皆様の熱い歓迎を受けました。あの時見学をした菊人形、今でも覚えています。

ミステリーマン？登場だが？

また、こんなこともありました。第１０回ミステリートレインは、新潟県「キュービットバレースキー場」帰りの電車での出来事です。こちらも途中在来線に乗り換えての移動中、途中でブザーを押してしまった子がいて、「まだ降りるな！」と注意する育成者Ｔさん。降車駅で人数を数えると、え？一人多い！？
そう、そのブザーを押した子は、地元で塾に通う小学生だったのです。「連れてきてしまった…！」今思い出しても背中がヒヤッとします。

憧れのまとジュニアリーダーたち

肝試し！後ろから誰かが？

ジュニアのキャンプ､夏の三泊四日。毎回「たくましくなって帰って来た」と保護者の方から言われます。着替えも一人でできなかったのに……と。昔は、ジュニアリーダーも多く、リーダー中心の活動をしていました。中にはホームシックにかかる子もいたのですが、班付きのリーダーが子どもをなぐさめていました。シニアリーダーも「ぼくたちだけでやらせてください」そういう雰囲気でした。育成者はちゃんといるけれど、子供達は子供達だけで活動をしていたんですね。今、この時代、まさにそれが求められている気がします。

そうそう、ある年の６年生卒業の春に、スケートに参加した女の子。帰り際に手をついて腕を骨折してしまいます。その時、心細くて泣いてしまった彼女を、ジュニアリーダーが代わる代わりに励ましました。そのジュニアリーダーに憧れ、彼女は、ジュニアリーダーに入ってくれました。ジュニアリーダーでも彼女は立派に活躍。頼られるお姉さんに。

そして数年前「このたび､子供会の担当になりました。よろしくお願いいたします。」児童青少年課に入ってきた見覚えのある顔。

そう、彼女はあの骨折した女の子だったのです！

絆を大切に！忘れてはいけない

2011 年 3 月 11 日東日本大震災が発生！東京が震源地かと思うほどの揺れ、小金井市立東小学校は、被災地宮城県気仙沼市大島小学校と交流をしていた（校歌の歌詞を作詞した人が気仙沼市大島出身、会長齋藤も気仙沼市出身）このような縁があり、現地では新学期早々児童生徒たちは学用品不足で困っている。小金井市の全小学校に呼び掛け、図書・学用品を提出していただき、夜間運転をして新学期に間に合った。

９年も経ちましたがあの日はズーッと忘れません。

市内全児童が学用品を持ち寄る

会長・副会長自ら運転をし

気仙沼市大島の荒廃した風景

●水色の枠線……切れてはいけない要素（文字やロゴ等）をいれる範囲
●ピンクの枠線…仕上がりのサイズ
●みどりの枠線…フチなし印刷にする場合、背景を伸ばす範囲

★★★ ＰＤＦに変換して入稿される場合 ★★★
「ヘッダーフッター」画面（カーソルが矢印になる上下の余白の範囲でダブルクリック）より
色つきのガイド線を消してから変換してください